

農作物の
安全・安心と

病害虫防除の
技術向上のため

防除日誌をつけましょう！

防除日誌は、食品としての安全を証明する資料（消費者等から農薬の使用履歴を求められた時や農薬問題などが発生した場合に、適正使用の確認や原因究明など）として役立つほか、自身がこれまでに行ってきた防除や管理作業を振り返ることで、防除技術の更なる向上を図ることができます。

作物名

対象病害虫

農薬名

使用時期

使用濃度・
量

使用回数

日誌に記帳する重要ポイント

自分で実践できる内容や様式を
工夫して記録してみましょう！

- 1 防除日誌は**ほ場ごとに作成する**。
散布前には**農薬のラベルをよく確認し**、いつ、どんな作物に、どの農薬を、どれだけの量や濃度（希釈倍率）で、どのように処理したかなどを下記の記載例を参考に記載する。また、耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、各薬剤の作用機構分類（FRAC または IRAC コード）を記載しておく。（農薬のローテーション防除の目安となります。）
- 2 **農薬処理時の各種病害虫の発生状況を記録する**。
場所、発生程度などや**作物の生育、ほ場の環境**なども、できるだけ詳細に記録しておく。さらに、農薬処理後における**防除効果の判定も記録する**。
これらを積み重ねて検討することにより、次回の病害虫の発生予測（どの時期に、ほ場のどの辺に発生しやすい）や防除計画などの参考になります。

参考記載例

ほ場ごと記載
しましょう！

防除日誌（令和〇〇年〇月～令和〇〇年〇〇月まで）

□ は使用基準

ほ場場所 (No.〇)	面積	作物名	播種または定植月日	収穫期間
〇〇地区〇〇番地 (ハウス東側〇棟目)	〇〇 a	□□□□□ 品種：〇〇〇	〇月〇日 播種 〇月〇日 定植	〇月〇日～ 〇月〇日

できるだけ詳細
に記載する

月日	用途	薬剤名	希釈 倍数	使用量 (10a 当たり)	処理方法	FRAC 又は IRAC コード	対象病害虫	処理時またはその前後の状況 などメモ	防除効果等 (○×△)
〇月〇日	殺菌	□□□ フロアブル	2,000 倍	200 ㍓	散布	F:11	〇〇病の防除	ハウス出入口の手前左側から発生、直ちに薬剤散布	○：効果高い
〇月〇日	殺虫	□□□ 粒剤	耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、RACコードを記載してローテーション散布を実施する	100㍓に希釈	株元処理	I:4A	〇〇ムシ、〇〇ムシなど対策	予察注意報が出たので予防処理	△：□□ムシの被害が発生
〇月〇日	除草	□□□ 乳剤			畦間処理		□□□草が多いので	ほ場の〇〇側左半分が多発生した	△：□□草が残る
〇月〇日	殺菌	□□□ 水和剤	800 倍	300 ㍓	散布		〇〇病の防除	1 週間ほど天候がぐずつき、株元が変色している	×：効果低い
〇月〇日 開花当日	植物調整	□□□□□	50 倍		散布		着果促進	曇天であったが、着果良好	○：効果高い
〇月〇日	殺虫殺菌	□□油剤		20 ㍓	土壌灌注		〇〇センチュウ、〇〇病の防除	一昨年の栽培で多発生。前作は□□□を栽培。	○：かなり発生低下

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。